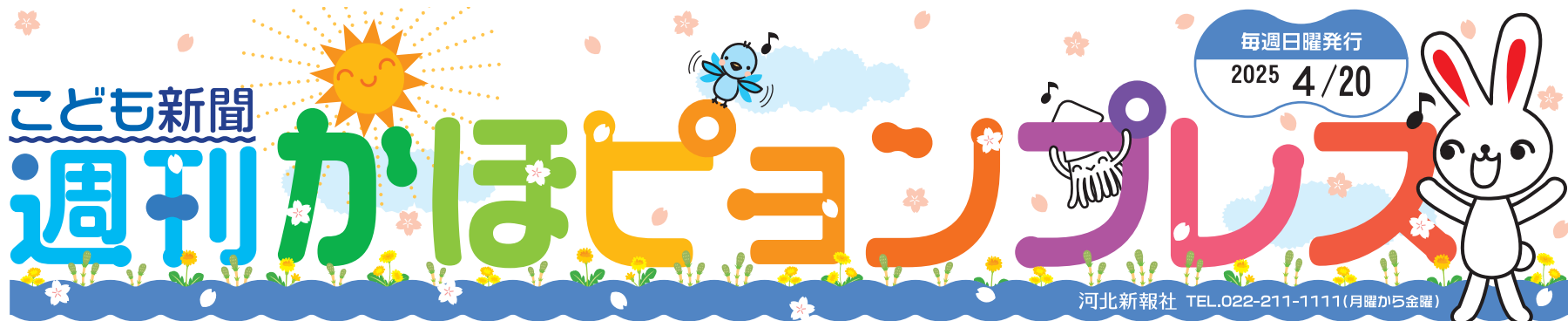




きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

「防災士」の資格取得に挑戦



自然災害や災害医療、災害情報などを学ぶ防災士養成講座
＝2024年2月3日（仙台大提供）

ニュース



自然災害は場所や時間を選ばず突然、襲ってきます。防災知識を持ち自分と家族、地域の人々の命を守りたいと思い、2月に民間の資格「防災士」の取得に挑戦しました。（教育・防災連携室 越

1995年の阪神大震災では、多くの被災者が家族や近所の人に助け出されました。防災士制度は、そんな阪神の教訓から生まれました。認証機関の認定NPO法人「日本防災士機構」によると、全国で防災士は30万人を突破。2日間の養成講座と、消防署などが実施する救急救命講習

中谷郁子

知識・経験 備えに生かす

の修了後、試験に合格すると取得できます。



昨秋、受講を申し込むと「宿題」が送られてきました。A4判384ページの分厚い教本と、問題集です。災害発生の仕組みや予報、警報の内容、自助と共助のポイントなど21項目もあり、年末年始は宿題に追われました。

2月8、9日に宮城県柴田町の仙台大で開かれた講座には、多賀城高の生徒からお年寄りまで幅広い年齢層の71人が受講しました。講座は2日間とも7時限まで。座学のほかに、4人1組で取り組む演習がありました。

1日目の演習は自主防災活動の体験です。参加者は別々の情報が記されたカードを渡されま

せ、解決方法を探りました。

2日目の演習は避難所運営です。避難所となる学校の体育館や教室をどう使うか、計画を立てます。家族構成や病気などに配慮し、避難者の部屋割りなどを考えました。

講師が、避難所運営のこととして「みんなで協力し合う」「相手の立場になって考える」「優先すべき人を大切にする」を挙げ、「これらは災害時だけでなく普段から大事なことです」と話したのが印象的でした。



2日目の7時限目が試験です。3択で30問出題され、正答80%以上で合格です。選択を悩んだ問題もありましたが、なんとか試験を終えました。

2月17日、合格通知が届きました。全問正解でした。防災士資格は取得がゴールではなく、知識と経験を災害時の備えに生かすことが大事です。気持ち新たに、新年度を迎えました。

この日 何の日

◇22日（火） 道の駅の日

1993年のこの日、全国103カ所の道の駅が登録されたことから、全国道の駅協議会が制定しました。地場産品の販売やレストランを備え、観光拠点としてにぎわう施設もあります。宮城県内の道の駅は19カ所です。

きょうの紙面

- 2面 やさしいにほんごニュース
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者リポート